

若手研究者のための研究キャリア発見マガジン

2020. 冬号

vol.51

[インキュビー]

incu・be

# 自分ごとに 出来る場所

特集

## ベンチャーで働く という選択肢



# incu・be vol.51 contents

## 特集 **ベンチャーで働くという選択肢**

- 06 生体変化をつぶさに読み解く、東工大発の新技术に魅せられて  
(田畑 裕貴 さん aiwell株式会社 研究支援事業グループ 研究員)
- 08 会社の描く世界観への共感が、新たなキャリアを切り拓く  
(竹山 政仁 さん 株式会社ブランテックス 企画室長)
- 10 牛尿が消臭液・土壌改良剤になる研究体制をゼロからつくる  
(加藤 勇太 さん 環境大善株式会社)

### 響け、博士の力

- 03 全てを数式で捉えて考え抜く力  
杉山 聡 さん 株式会社アトラエ データサイエンティスト

### キャリアディスカバリーフォーラム

- 12 研究者として社会で挑戦する道を、自らつかもう！  
町へ出よ、研究を活かす道はそこにある  
佐野 公俊さん 明星大学大学院 人文学研究科 心理学専攻 修士2年生

### キャリア発見！ツールボックス

- 14 他の人にはない特徴は何か？～あなたの価値を最大化する3つのキーワード～

### 探しに行こう 自分の場所

- 16 大学の外でアカデミア研究者として実現する「心」の追究  
町澤まる さん 広島大学 脳・こころ・感性科学研究センター 特任准教授
- 18 起業という手段を通じてオリジナリティを確立する  
高倉 葉太 さん 株式会社イノカ 代表取締役 CEO

### お知らせ

- 20 第10 超異分野学会本大会 参加者募集
- 22 第51 回リバネス研究費 申請者募集
- 24 リバネスユニバーシティ開校
- 26 研究アドバイザー募集
- 27 研究キャリアの相談所

# 響け、博士の力

## 全てを数式で捉えて考え抜く力

私は、数理科学の博士号を取得した後、現在の会社で1人目のデータサイエンティストとして従事しています。私の担当する事業「wevox (ウィボックス)」は、組織への愛着や信頼といったエンゲージメントをアンケートで数値化して、職場などの組織改善を促すプロダクトです。チームの状態を数値化することができるのですが、アンケートでは満点だと答えていても心の中では実は普通もしくはやや不満だということもありますし、チームの状態はメンバー同士が相互に影響を及ぼし合っています。なので、単純にメンバーのスコアのデータの平均値でチームの状態を表しても現実とマッチしません。このような抽象的な「チームの状態」という概念を数値として推定するために、ベイズ統計を利用して構造を仮定して数式を組むのですが、数式的な感覚を持っている人が数学モデルを組むと、定性的な関係を再現するようなまともなものが作れるんです。

ある種のタイプの人が周りの人に影響を及ぼす、といった構造を組み込みたい場合も、例えば、数式に含まれる確率分布やそのパラメータの調整を通して実現できるのです。数式の細かなところの項をいろいろな形に変えて計算してみるなど、泥臭い調整を続けていましたね。ホワイトボードのある会議室を3週間も占領して数式を書きなぐっていたこともありました。そうした調整ができるのは、私が式変形のための基礎知識である線形代数や微分積分を呼吸するようにできるからだと考えています。これは数学の研究者として数式で創造性を発揮してきたからこそその強みです。

博士課程では、連続したひとつながりの時間を確保して思索にふけることができます。この経験が今の私の基礎を創り上げました。実は元々、大学で数学の研究を続けようと考えていたんです。研究は人間の知の領域を広げ、人類自体を高めるすごく価値のある仕事ですから。でも一方で、いろんな人と話をしているうちに、自分が実現したいことを目指していく活動を仕事にできるんだと知って、社会に出てみたんです。そうしたら、博士課程で築いた基礎が社会に出て価値として発揮されるんです。私の仕事には明らかに博士課程の経験が活かしていますから。数学を研究することも今の会社で働くことも、本質的には同じです。これからも明日の世界を作るために価値ある仕事を積み重ねていきたいです。

(文・岸本 昌幸)



杉山 聡 さん

株式会社アトラエ  
データサイエンティスト

東京大学大学院にて博士（数理科学）を取得の後、株式会社アトラエに入社。同社初のデータサイエンティストとして、エンゲージメント解析ツール wevox のデータ分析機能開発に従事する傍ら、一般社団法人データサイエンティスト協会にてスキルチェックシートを開発し、データサイエンティスト育成にも貢献している。慶應義塾大学島津明人研究室上席所員も兼任。

特集

# ベンチャーで働くという選択肢

皆さんはベンチャー企業を、次のキャリアの選択肢として考えたことはありますか。多くの方が一度は耳にしたことはあるかと思いますが、その実情を知っている方は少ないかと思います。一言にベンチャー企業といっても、大学発の技術シーズを事業化する会社もあれば、新しいビジネスモデルを創造して勝負する会社もあり、それぞれ特徴はありますが、大企業と比較した場合には共通する特徴が数多くあります。大学で学んだ知見や研究を何かしらの形で生かしたい、次のキャリアを探している、自分が活躍できる場所を探している皆さん。ぜひ一度ベンチャー企業に就職する事を選択肢に入れてみませんか。

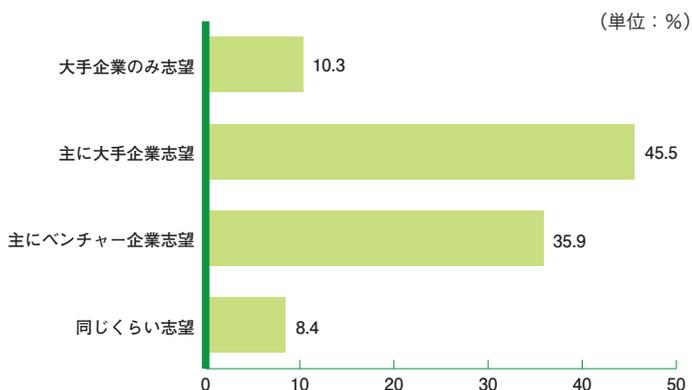
ここではみなさんと同世代の大学生・大学院生のキャリア感とベンチャー企業側のニーズをご紹介します。  
※特集内では、「新技術や高度な知識を軸に、創造的・革新的なビジネスを展開する小企業」を、ベンチャー企業と定義します。

## 認識され始めた“ベンチャー企業”という選択肢

右図は、2021年度に卒業予定の全国の大学生、大学院生574名によるアンケート結果です。結果より、大手企業のみを志望する学生に比べ、25.6%も多くの学生がベンチャー企業を進路先として検討していることが明らかになりました。つまり、卒業後の選択肢としてベンチャーを選択することはもはや珍しい時代では無く、魅力的なキャリアの1つとして認知され始めているのです。

それではベンチャー企業側は、入社希望者に何を求めているのでしょうか。

### 大手企業とベンチャー企業、どちらを志望しているか



引用：PR TIMES「完全大手志向は1割 変動する21卒学生傾向」  
「大手企業とベンチャー企業、どちらを志望していますか」より

# 求められる技術開発・コミュニケーター人材

以下のアンケート結果から、ベンチャー企業の多くは「技術開発の担当者」や、「営業・販売促進の担当者」を求めていることが分かりました。技術開発担当者にはもちろん高い専門性が求められるでしょうし、営業・販売の担当にも自社の技術を理解し世界へ伝える熱を持つコミュニケーター人材として研究者の活躍の場がありそうです。

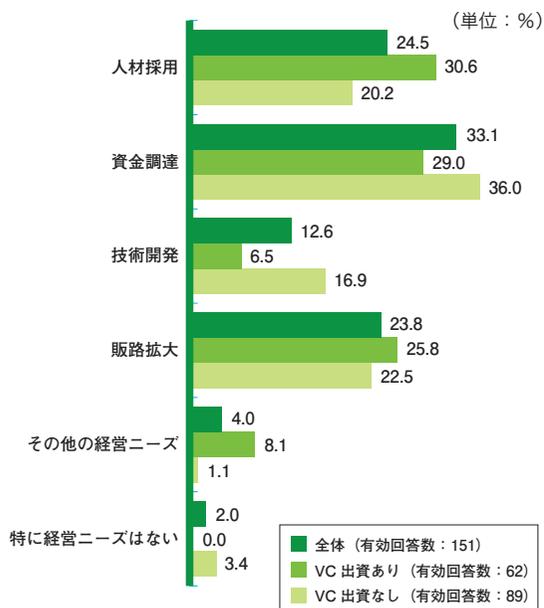
## 調査概要

本調査結果は、一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンターにより作成された「ベンチャー白書2018」を参考とした。実施概要は以下の通りとする。対象企業：設立5年以内のVB（ベンチャービジネス）、調査期間：2018年5月8日～6月7日、調査方法：Webアンケート方式、対象企業数：1,667社、有効回答企業数：153社（9.18%）

## 回答企業業種

通信・ネットワーク及び関連機器 5.9%、コンピュータ及び関連機器・ITサービス 35.9%、ソフトウェア 11.8%、半導体・電気一般 2.6%、バイオ・製薬 5.2%、医療機器・ヘルスケアサービス 11.1%、工業・エネルギー・その他産業 5.9%、メディア・娯楽・小売・消費財 8.5%、金融・不動産・法人向けサービス 11.1%、ロボット関連 2.0%

## 現在あるいは近い将来の経営ニーズ



## 人材ニーズ (複数回答可)



引用：ベンチャー白書2108 図表 4- 25 現在あるいは近い将来の経営ニーズ (左)

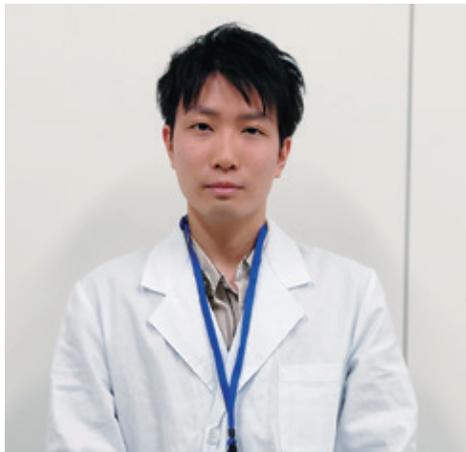
図表 4- 27 人材ニーズ (右) より

以降のページでは、夢のような世界を本気で実現しようとするベンチャー企業の実態と魅力を皆さんにお伝えしたいと思います。それぞれのベンチャーが掲げる理念に共感し、新たなキャリアを築き始めた3名の声から、現場で働き始めて改めて感じるベンチャー企業としての魅力、必要となる心構えなどをそれぞれが描く未来予想図とともに紹介します。

# 生体変化をつぶさに読み解く、 東工大発の新技术に魅せられて

田畑 裕貴 さん

aiwell 株式会社  
研究支援事業グループ 研究員



「創業の世界に革新を起こす技術がここにはある」。そう語るのは、2020年5月にaiwell株式会社に入社した田畑 裕貴さんだ。学生時代には海洋生物に興味を持ち、マダコの唾液腺キチナーゼの精製と性質の解明に取り組んでいた研究者が、なぜ全く違う分野のベンチャーへ飛び込む決意を固めたのか。彼の轍から見える、ベンチャーの魅力について伺った。

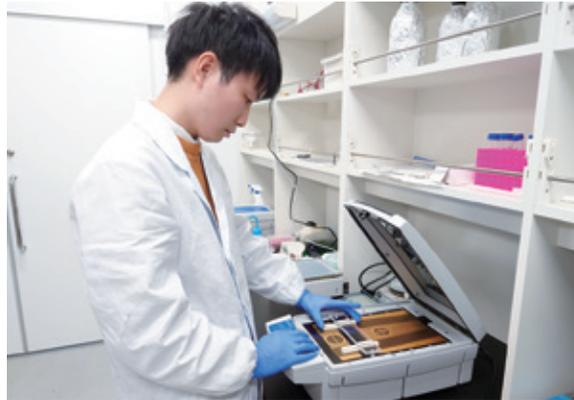
## 未来にあるべき健康管理社会を目指して

「世界中から未病を無くし、人をずっと健康にする」というビジョンを掲げ、指定国立大学法人東京工業大学から2018年8月に生まれたaiwell株式会社は、AIプロテオミクスという新技术を駆使し、病気の早期発見や健康管理を目指すベンチャー企業だ。

プロテオミクスとは、生体内のタンパク質の種類や状態を二次元電気泳動法などを用いて網羅的に解析し、生体に起きている変化を捉える研究手法だ。これまで、その煩雑さやコストの面から一部の研究・医療機関でしか活用されてこなかったが、aiwellは、多種大量の二次元電気泳動画像をAIに学習させることで、より簡便に短時間で解析結果を導き出す「AIプロテオミクス」の開発に成功した。田畑さんが、そんな人々の健康状態に見える化しようと挑戦するベンチャー企業の門を叩いたのは、創業業界の課題を目の当たりにしたからだという。

## 実務経験から生まれた課題感が架け橋に

「幼い頃から研究者になって社会に貢献できる仕事をしたかったんです」と語る田畑さん。aiwellに入社する以前には、自身の思いを実現するため研究職専門の派遣会社へ就職し、多様な研究機関・企業に所属して、技術を磨き実績を積んできた。その中の1つに、人生の転機となる創業系ベンチャー企業での治療薬開発があった。一般的に創業研究では、血液中に存在するタンパク質等の物質の中から、特定したい疾病の発症や進行度に応じて濃度が変化するバイオマーカーを探索し、検討を重ねながら研究が進められる。しかし、この方法では膨大なコストと時間がかかり、目の前で苦しむ難病患者の元へ新薬を届けることは容易ではない。作用機序がわからない難病に対して、迅速に創業研究を進められる技術が存在しない、という大きな課題に直面し思い悩んでいた時、aiwellのAIプロテオミクス技術と出会った。「この技術があれば、難病患者と健常者をタンパ



▲研究所にて電気泳動をおこなう田畑さんの様子

ク質レベルで迅速に判別できる。過去に感じていた創業までの時間削減や、コスト削減にも繋がると感じたんです」。まさに運命の出会いだった。

## 己が人生をかけるに値する仕事を見極める

そんな田畑さんも初めはベンチャー企業に入社することに対して抵抗感があったという。本当にこの会社は大丈夫なのか、将来はどうなっていくのだろうか、と不安に思うこともあった。しかし、実際にベンチャー企業で働いてみて、そんな考えも吹っ飛んだという。「ベンチャーには、大手企業では任されない個人の裁量の大きさや、自分自身を高められる場としての魅力を感じます。そして、例えば会社が危なくなったとしても自分自身の技術や経験がしっかりしていれば乗り越えられると思える気概もつきました。仕事やその仲間が人生の多くをともにする大切な存在です。みんなで会社を成長させようという一体感を感じられることもベンチャーの魅力です」と田畑さんは語る。

「aiwellはこれからもっと結果を出さなければなりません。私たちが目指す革新的な世界を1人でも多くの人に理解してもらうために、自らの手でAIプロテオミクス技術を実用化したい」。裁量が大きいゆえに、仕事量も多く、ハードワークであることは間違いない。それでも自分たちの技術を信じ、必ず世に出すまで諦めずに走り続けてくれるメンバーに囲まれながら、研究に没頭できる環境は何にも変えがたいという。課題解決に対する熱い想いを燃やし、今日も田畑さんは研究を続ける。  
(文・小玉 悠然)

田畑 裕貴 (たばた ひろたか) プロフィール

日本大学 生物資源科学部 海洋生物資源学科 卒業後、同大学院へ進学。その後、東京大学医科学研究所 遺伝子解析施設にてコスミドベクターの作製、SBI バイオテック社にて免疫治療薬の評価、微生物化学研究所にてCRISPR/Cas9を高度に発現するアデノウイルスベクターの作製に従事。2020年5月より現職。

# 会社の描く世界観への共感が、 新たなキャリアを切り拓く

竹山 政仁 さん

株式会社プランテックス  
企画室長

株式会社プランテックスは完全人工光型植物工場を手がけている会社だ。竹山さんは、技術力で世界の重要な食や農業の課題を解決するという同社のビジョンに強く共感し、2020年3月にプランテックスに入社した。その思いはどのようなものであったのだろうか。



## 今後5年が面白いという直感を信じて

竹山さんは、東京大学大学院の農学生命科学研究科で修士号を取得後、総合商社に入社してコーポレート部門に配属された。充実した仕事の日々を送りながらも、もともと最先端の科学技術の社会実装や事業化に興味があった竹山さんは、ものづくりや工学的なアプローチで植物生産を変えていこうとしているプランテックスという会社を知り興味を持ったという。植物工場は事業として成立するのかなどの疑問も抱いていたが、知人の紹介でプランテックスと交流をもつなかで、同社が展開する密閉型の栽培装置は一見奇異だが、植物工場でしかできない植物生産を実現するうえでは極めて合理的な設計であると感じるようになった。また、環境再現性を高めた栽培装置は様々な植物科学を産業に応用するプラットフォームになる可能性があると感じた。

植物工場は持続可能な食料生産を実現する手段

として世界的な注目が集まっている。国内でも既に数百か所の工場が稼働しているなど社会実装段階にあると言えるが、高まる期待の反面、様々な技術的課題があることを知った。プランテックスは、環境制御性を高めた密閉型の栽培装置と、独自の植物成長管理システムによる栽培管理に特徴がある。竹山さんは同社の技術や植物工場について調査を続ける中で、産業としての植物工場は感覚値としてこれから5年程度が非常に面白い時期であり、プランテックスの技術による新しい植物工場を普及させるうえでの勝負時だと感じたという。今このタイミングで同社のような可能性を秘めた会社に加われる機会はなかなか無いという思いが湧きあがり、入社を決意したのだ。

## 資金調達から栽培試験までを担う

プランテックスの社員は14名、その多くはエンジニアが占める。竹山さんは前職の総合商社の経験を買われて、事業担当として入社した。主に



▲植物栽培装置のモニターで環境設定やカメラ画像の確認を行っている。

事業計画作成や資金調達等の経営企画業務、助成金プロジェクトの推進、広報や採用など、開発業務以外のあらゆる業務を担っている。さらには、成長を促進する栽培条件探索や多品種栽培などの栽培試験にも携わっているというマルチぶりだ。人数が少ないためにさまざまな業務を任されている状況だというのが、竹山さんの捉え方は非常にポジティブだ。「周りの社員がそれぞれの強みを存分に発揮できるように、また、開発に全力を注げるように、環境や体制を整えるのが自身の仕事。また、プランテックスの技術の価値を一層高めていくために栽培研究にも力を入れていきたい。」と力強く話してくれた。

## ビジョンに心底共感できる幸せ

安定した総合商社と比べれば、不安定であろうベンチャーへの転職。多くの人が不安を抱く状況の中、竹山さんはどうやってその不安を払拭し決断に踏み切ることができたのだろうか。率直に尋ねてみると、「先が読めないからこそ自分たちが取り組む価値があるし、様々な課題を自社の強み

で乗り越えていく、かき分けていくのが面白さだと思います。そこに情熱を感じられないと不安になるかもしれませんね」とむしろその不安定さを楽しんでいるようだった。プランテックスは新しい産業をつくる、食の常識を変えるなどのビジョンを描いており、竹山さんもそこに夢を感じているようだ。「短期的な利益のみを追求するのではなく、本質的に価値があるものを生み出そうとしている。プランテックスの植物工場には新しい産業をつくり出していくポテンシャルがあるんです」と自社の魅力を話してくれた竹山さんは全力で植物工場の未来へ向かっている。

(文・富田 京子)

竹山 政仁 (たけやま まさひと) プロフィール  
東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程修了。  
新卒で総合商社に入社し、金融事業や資源投資事業を管轄するコーポレート業務に従事した。同社在籍中にプランテックスと出会い、その技術とビジョンに魅力を感じて入社。現在は経営企画や栽培試験などを担当している。

# 牛尿が消臭液・土壌改良剤になる研究体制をゼロからつくる

加藤 勇太 さん

環境大善株式会社

「会社の規模は関係なく、自分が主体的に取り組める場所を探していました」と語るのは、環境大善株式会社に入社して3年目の加藤勇太さんだ。当社は2006年創業ではあるが、加藤さん以前に修士卒や理系出身者は誰一人入社したことがなく、経営陣にもいなかった。そのような場所へ飛び込むことで、加藤さんはどのような経験をしてきたのだろうか。



## 牛尿が消臭剤に変わる不思議

環境大善株式会社は、北海道北見市に本社を置き、酪農家から牛の尿を購入し、その発酵液から消臭液や土壌改良材の開発を行っている。加藤さんと会社との出会いは、大学院時代に遡る。環境大善株式会社から加藤さんが在籍していた研究室へ、牛の尿を原料とした製品の効果について科学的な裏付けをとるための依頼があったのだ。当時就職活動中で、企業の規模や場所よりも、自分自身が興味を持ち挑戦できる場所を探していた加藤さんは、牛の尿が消臭液や土壌改良材に変わることに大変興味を惹かれたという。さらに、環境大善株式会社には研究所や研究部署が存在せず、それらを全てゼロから立ち上げていく必要があった。そういった状況は逆に加藤さんの情熱を駆り立てた。「研究所をゼロからつくる経験は、中々できません。経営が悪くなる可能性もありましたが、その経験の方が大事だと思い、飛び込もうと決

意したんです」と加藤さんは語る。

## ゼロから研究体制の構築に挑戦

「よし、加藤！なんでもやってもいいぞ!」、入社後当時の社長（現会長）から言われた一言が印象的だったという。1年目から本当にゼロからの研究所立ち上げがスタートした。加藤さんは、まず現状を理解するところから開始した。過去の研究実績を遡ってみると、様々な共同研究実績はあるようだった。しかし、全て単年で終わっていて、データが蓄積されていない状態にあった。また、製品の製造工程を確認すると、品質基準は現場の職人がニオイや色を見て判断するという定量化されていない基準となっていた。牛尿発酵液の効果効能を調査するためにも、データを蓄積し、品質にバラツキをなくしていくことが重要であることが見えてきたのだ。会社は加藤さんを、もともといた北見工業大学の研究室に派遣するという体制を整え、品質管理の研究が始まった。



▲牛の尿から生まれた消臭剤「きえーる」

## 違いを受け入れる柔軟な社風

安価で誰でも評価することができる品質管理方法をつくるために、同類の商材などを参考にしながら、研究を進めた。「たくさんの試行錯誤をする中で、私が考えた提案を会社は全て受け入れてくれました」と加藤さん。初めての研究人材だったにも関わらず、柔軟に対応してくれる環境がそこにあった。また、加藤さんは北見工業大学で研究するため、他の社員の方とは働き方が異なる。その中でも、研究協力を社内に投げかければ、皆快くサポートしてくれ、理解、支援を行う関係性を築くことができた。社内に助け合う文化が浸透していたおかげで、研究も推進し、半年間かけて品質管理の体制構築に成功したのだ。

## 牛尿の新しい効果効能を見出していく

現在、加藤さんは牛尿発酵液の効果効能のエビデンスの取得に向けて研究を進めている。さらに、

令和2年度戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）の採択を受け、牛尿発酵液を微細藻類の増殖促進に活用することも検討している。新しい付加価値を見出すことで、公害の原因となっている牛尿がさまざまな分野へ展開されていくことが期待される。そして、牛尿を酪農家から買い取り、付加価値製品に変え、地球を健康にしていく循環を世界に広げていくことが加藤さんが目指す世界だ。「自分の専門分野だけでは、発想が限られてしまいます。だから、別分野の研究者ともディスカッションしながら、新しい付加価値を見出していきたいと考えています」と加藤さんは語る。

（文・中島 翔太）

加藤 勇太（かとう ゆうた）プロフィール  
北見工業大学大学院バイオ環境化学科修士課程修了。  
2018年、環境大善株式会社に入社。入社以来、牛尿発酵液の品質管理体制、効果効能の研究に取り組む。2019年4月からは北見工業大学に再入学し博士号取得を目指している。



# 研究者として社会で挑戦 する道を、自らつかもう!

研究はどのように社会で役に立つのだろうか。そこに自分はどのくらい貢献できるのだろうか。

社会の中で潜在的な課題を発見し、解決できる方法を探す中で、研究者として新たな価値を生み出すチャレンジをしてみませんか。

研究室の外に出て、企業の研究者と話したり、実際に仕事をしてみることでしか、わからないことがたくさんあります。「キャリアディスカバリーフォーラム」では、多くの研究者が企業と繋がり、その後、社会に飛び出して、研究を活かす道を支援しています。

## 町へ出よ、研究を活かす道はそこにある

佐野 公俊 さん

明星大学大学院 人文学研究科  
心理学専攻 修士課程 2 年生

佐野公俊さんは、強迫性障害の治療に役立てるために ACT と呼ばれる心理療法について研究している。2020 年 6 月に行われたキャリアディスカバリーフォーラムで、栃木県のもづくり企業である株式会社アオキシントックのブースを訪れ、イベント後、社長のカバン持ちを経験した。心理学専攻の学生がものづくりの会社へ。一見専門性が異なる企業に飛び込んだことで何を発見できたのだろうか。

### 工場のヒューマンエラーを防げるか?

「カウンセリング以外で活用の方が少ない」。佐野さんは、自らが学んだ心理学を社会に役立てる方法を模索していた。そんな中、工場などのヒューマンエラーを心理学の知見で解決できるのではというアイデアを思いつき、キャリアディスカバリーフォーラムにて、株式会社アオキシントックのブースを訪れた。考えてきたアイデアをきっかけに、社長の青



木圭太さんと話が盛り上がり、後日工場見学に参加する約束を取り付けて実際に現地に訪問した。工場見学では、現場の人に工場のことや実際に働いている状況などを教えてもらい、ヒューマンエラーが起きやすい実際の状況などについて知ることができた。具体的なやり方までは思いつけなかったが、心理学を活かせそうな可能性を感じることができた。

### ビジネスをするのは機械でなく、人間だから

今回工場見学以上に佐野さんを興奮させた

のは、社長のカバン持ちを経験したことだ。青木さんが社外の人と会う現場に3回同行した。もっとも印象的だったのは、青木さんが商談相手と、まるで友達に話すように新しい仕事のアイデアについて話す姿だった。それは、ビジネス現場に佐野さんが持っていた、ルールだけのイメージとはかけ離れており、遊び心や個人の繋がりから仕事生まれることを実感した経験だった。クリエイティブな創造や、円滑なコミュニケーションには性格や特性に働きかけたり心の動きを掴むことが必要であることがわかったのだ。ビジネスを行うのが機械ではなく人間である以上、心理学が活きる場面は多いと佐野さんは確信できた。

### 専門性を活かすため専門以外の世界も知る

今回の経験から、心理学者は心理学をより活かすために、専門以外の世界も知るべきだと佐野さんは考えるようになった。今後、社会で見てきた課題に心理学的な知見での解決を目指し、起業も視野に活動してみよう。まだまだ解決策を生み出すまでには社会の理解や現場との議論が必要だ。専門以外の世界での課題の発見が、思いもかけない研究の活かし方のヒントになる、それを実感できる事例と言えるだろう。

## 研究者の活躍の場を発見する キャリアディスカバリーフォーラム

キャリアディスカバリーフォーラムでは社会の新たな課題の解決に研究で挑戦している企業の研究者と話すことができます。ぜひ、ご参加ください。

研究開発で世界を変える挑戦をする  
企業研究者と直接会える。

双方向のコミュニケーションで自分の研究や  
アイデアへフィードバックがもらえる。

インターンなど、社会で実際に活動してみる  
経験を積める機会を多数輩出。



### 開催日程・場所

12月5日(土) 13:00-18:00 @東京  
1月23日(土) 13:00-17:30 @神戸  
1月30日(土) 13:00-16:00 @東京  
3月20日(土) 13:00-16:00 @東京

詳細・  
参加申込は  
こちらから





## 今回の ツール

## 他の人にはない特徴は何か？ ～あなたの価値を最大化する 3つのキーワード～

材料化学が専門の<sup>すだちしょうへい</sup>巢立 翔平さんは、大学院での研究で培ってきた自分のスキルや関心を活かした仕事をしてみたいと思っています。でも、自分自身がラボにこもって化学の研究をずっと続けていくことには、違和感を持っていました。黙々と実験するよりも、もっと人と関わる機会の多い仕事をしたいと思っていたのです。そこで、自分が本当に望んでいる仕事の形を考えようと、このツールを使ってみました。

### シート1

あなたがやりたいこと（やってみたいと思うこと、関心があること、解決したい課題などを書き出そう）	あなたのこと（自分自身の専門性、性格や強み、経験、特性を書き出そう）
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ものづくりをしたい</li> <li>●地球を大切にしたい</li> <li>●世界中の人に科学の楽しさを伝えたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●材料設計のスキル</li> <li>●研究に熱中できる</li> <li>●学校祭の創作班リーダーの経験</li> <li>●仕事が好き</li> <li>●部長の経験</li> </ul>

### シート2

あなたがやりたいこと	あなたのこと	あなたのこと
世界中の人に科学の楽しさを伝えたい	材料設計のスキル	学校祭の創作班リーダーの経験

※赤字部分を巢立さんが記入

まずは、シート1に記入してみました。すると、中学生の時に、学校祭の創作パネルの班のリーダーになって、チームの皆と夢中で創作に挑んだ経験を思い出しました。もっとここにこんな色や材料を使うと見映えが良くなると、意見を出し合って創作することが楽しくて仕方なかったのです。次に、シート1のあなたがやりたいことの欄から1つ、あなたのことの欄から2つ、自分が一番大事にしたいキーワードを選んで、シート2に書き並べてみました。1つか2つのキーワードだけだと、多くの人にも当てはまるものになりますが、キーワードを3つ繋げると自分の特徴が見えてきます。「世界中の人に科学の楽しさを伝えるために、材料設計のスキルや創作班リーダーの経験を活かしてチームで取り組む」。巢立さんは、自分の特徴を知ったことで、科学で創作物を生み出すサイエンスアーティストに興味を持ち、話を聞きに行くことにしました。自分の価値を最大限に活かす方法を模索し始めたのです。

PCで書き込めるシートのダウンロードができます。

詳しい使い方や、他の分野の研究者が書いたシートもチェックできます！

■使ってみたい人はwebへ！ <https://lne.st/incube51-toolbox/>



# 探しに行こう 自分の場所

目標を見つけ、実力を養い、理想の場所にたどり着くために

どんな道を進むべきだろうか。

どんな研究者になりたいのか、活躍するには何が必要なのか。

そして、どんな研究キャリアがあるのか。

ただ、じっと待っていても答えは見つからない。

いろいろな人に会い、さまざまな場所を見ることで

自分の未来を描くヒントを見つけよう。

変化を楽しみながら

さあ、自分の場所を探しに行こう。



# 大学の外でアカデミア研究者として 実現する「心」の追究

町澤 まろ さん

広島大学 脳・こころ・感性科学研究センター  
特任准教授

脳波や生体情報を測り、人の感性を可視化して社会実装を目標とするプロジェクトを推進している町澤まろさん。所属する広島大学では、2020年より東京の拠点をベンチャーインキュベーション施設に設け、多くの企業との産学連携による基礎研究成果の社会還元活動を開始。大学の研究者がベンチャーに混じって働くその姿から、新しい研究者像が見えてくる。



## 大学がベンチャー入居施設に拠点をもつ？

町澤さんは広島大学「脳・こころ・感性科学研究センター (BMKセンター)」に所属する脳科学者だ。BMKセンターでは、さまざまな業界の企業などに脳波や生体データなどから評価可能な感性情報を活かしていくプロジェクトの推進やうつ病の診断方法の開発など、さまざまな課題について企業と連携し、社会応用を目指す研究に携わっている。そんな中、学外に拠点を持つというアイデアを提案し、実行に移したのが町澤さんだった。「連携先を増やすなら首都圏の企業を開拓したいし、東京を中心として活動することであらゆる企業とのネットワークや最先端の情報を取りにいく働き方が可能になると思っていた」。前例のないことのようにではあったが「この研究は産学連携などで社会に還元し、自立して研究開発ができる体制を整えることがミッションです。それが進むならやろう、と大学の合意を得ることができました」。どんな場所を東京での拠点にするか

を探し回り、入居企業とのコラボレーションや将来的な大学発ベンチャー設立も視野に入れ、今の施設を選んだ。

## 知識と技術を突き詰めてつながった「心」の道

町澤さんは、高校生のときに面白い映画の作り方を科学的に確立したいと考え、人の「面白い」という心の理論を理解できると思い、心理学を専攻した。そこで、「心」を突き詰めるためには、脳や神経の働きと状態の理解が必要だと考え、当時、脳波などで脳の状態を測定する最先端の研究が行われていたアメリカやイギリスに留学。「いずれは人の心の病に関する臨床寄りの研究をする仕事に戻りたい」と考えながらも、脳の測定技術でも特に認知神経科学という分野の研究を継続し、イギリスの名門UCL神経学研究所で博士号を取得後、アメリカでポスドク研究員を経験した。そんなときに現在所属しているBMKセンターの前身である広島大学の精神神経医科学講座



▲脳波測定装置を被験者に装着する町澤さん

で「感性を可視化するプロジェクト」への誘いを受け、ここなら脳と心、両方の視点を活かせる、と帰国した。

## 基礎と応用の間を行き来して

広島大学では自身の研究として、記憶量の可視化や、開発した感性メーターを用いてリアルタイムでワクワクを可視化する研究開発などをしながら、研究成果を製品やサービスへ活用できる企業を開拓したり、製品化を目指す応用研究にも取り組む。本格的な企業との連携経験は帰国して初めてで、企業と大学の文化や目的の違いを実感しているところだ。一方で、町澤さんは大学の価値は基礎的な科学メカニズムの解明にあると信じている。「科学的に何も新しいことを大学がやっても、それは企業がやることと変わらないですからね。でも、研究を社会に還元することを考えたら、ビジネスとして企業がやりたいことの実現ができるようになった。どちらが正解というわけではないので、企業との連携の中にもいかに新しい科学的知見を使いやすいかたちで、共有、追及できるかと考えながら取り組んでいます」。社会への還元企業との連携は欠かせないし、思いがけない応用に繋がるケースもあった。基礎研究者だから自分は企業とは合わないと思いつけず、異分野異文化の人たちとコミュニケーションをすることは重要だと実感した。

町澤 まる (まちざわ まる) プロフィール

認知神経学博士。日本、アメリカ、イギリスで臨床心理、認知神経科学、脳外科研究室などで多様な脳科学技術を習得。基礎研究に基づいた応用脳科学技術開発と社会実装開発に従事。脳科学で世界一の業績を誇った英国ユニバーシティ=カレッジ=ロンドン認知神経科学研究所・神経学研究所で日本人初の博士号取得。理化学研究所、米国ブラウン大学などを経て現広島大学特任准教授。

## 大学にいたるだけが研究ではない

東京の拠点では、新しくプロジェクトを立ち上げ、実験室実験では得られない、日常の人の脳波を測定し、普段通りの環境での人の脳と身体の関係性を明らかにしようとしている。大学の実験室内では手に入りにくい脳波情報を集めることができる上に、企業などからの訪問者に実物を見て体験してもらうことで研究への理解を深めやすくするショーケース (出張所) としての役割も果たす。大学ではない場所にいるからこそ、実現できるプロジェクトだ。「今は回り回って、自分がもともとやりたかった『面白い』という心を理解したいという夢が実現できつつある」という。測定ツールや情報通信技術が進化した今、町澤さんのように研究室ではないからこそ取れるデータもある。大学にいたるだけが研究ではない。サイエンスを突き詰める研究者が研究室を飛び出してたくさんの人とディスカッションしながら社会還元に向かつて連携していくことも、これからの研究者の働き方の1つになるのではないだろうか。

文：高木 史郎

大学から外に一歩踏み出し、企業や外部研究者との連携など大学の垣根をこえた活動を精力的にされています。研究室に閉じこもるだけじゃない、町澤先生の活動に新しい研究者の姿を感じています。



# 起業という手段を通じて オリジナリティを確立する

高倉 葉太 さん

株式会社イノカ 代表取締役 CEO

地球温暖化や海洋汚染などにより、今後 20 年で多くの水生生物が絶滅する可能性があると言われている。その中で、高倉さんは、サンゴを中心とした海洋生態系を人工的に再構築する「環境移送」という新しい概念を生み出した。非常に先進的な取組みだが、環境意識の高さゆえに起業したわけではなく、自分だけにできることを探究する中で行き着いたのだという。



## 環境移送という新たなビジネス

株式会社イノカが手がける環境移送技術は、海から、水温や光、水流、海水成分、生物の種類など多種多様なデータを取得し、人工的に再現した任意の水環境を、別の場所に移植するものだ。鑑賞魚飼育のスペシャリストが持つ豊富な経験やノウハウに、IoT・AIといったエンジニアの技術と生命科学分野の研究者の知識を掛け合わせることで、完全自立循環型の水の世界を創り出すことに挑戦している。高倉さんは、この技術が完成した暁には、絶滅危惧種の生物を保護・飼育し、再び自然環境に移植することで、生態系の崩壊を食い止められるのではないかと考えている。

## 自分らしさを目指す中での葛藤

いまや新進気鋭の若手経営者として注目を集める高倉さんだが、高校生の頃までは、親の勧めで医師になることを当然のように思っていた。しか

し、いざ受験が近づくにつれて、疑問を抱き始めたという。「子どもの頃からものづくりが好きで、高校生の頃はアップル製品に傾倒していました」。そんな漠然とした思いを教師に伝えたところ、ものづくりの道へ進むことを後押しされ、進路を切り替えた。入学後はものづくりを極めようと、学部で機械工学を学びつつ、プログラミングのインターンシップに従事するなど、とにかく技術を磨いた。大学院では、ヒューマンコンピュータインタラクションの第一人者である暦本教授の研究室に所属し、AIの研究に携わっていた。しかし、この分野は競合が多く、周囲を見渡すと皆が同じような研究をやっているように見えたという。このままでは画期的なイノベーションを起こせないと焦りを感じた高倉さん。「自分にしかできないこと」を模索する日々が始まった。

## 師の言葉で生き物に回帰する

大学院進学後まもなく、以前から趣味にしてい



▲オフィスにあるイノカの技術の粋をあつめたアクアリウムではサンゴたちがすくすくと生育中だ。

たアクアリウムに着想を得て、長らく変化のない鑑賞魚界にテクノロジーを取り入れることを考え付いた。電気刺激によって魚の向きをコントロールしたり、ソナーを使って水槽をセンシングしたり、何かビジネスの種がないものかと悩みながら試行錯誤を繰り返していた最中、ひとつの転機が訪れる。MAKERS UNIVERSITYというイノベーション育成プログラムに参加し、そこでメンターであるリバネスの丸幸弘に出会ったのだ。「丸さんから、いつまでも魚で遊んでいないでちゃんとバイオサイエンスを学びなさい。これからはバイオの時代だから、と言われたんです」。その言葉に感化され、生き物としての魚の面白さや、生態系としてのサンゴ礁に目を向けるようになったという。そして、2019年4月、高倉さんは株式会社イノカを設立した。

## ダイバーの問いから生まれた存在意義

設立後まもなくして、自宅で巨大サンゴ礁を栽培する凄腕アクアリストの増田さんと出会い、水槽ビジネスを開始した。「増田がつくるアクアリウムは、人工的に生み出されたとは思えないほど美しく壮大な景観です。彼の技術を要に水槽発のイノベーションを目指そうと決意しました」と高倉さんは当時を振り返る。しかし、このまま順調に

## プロフィール

株式会社イノカ 代表取締役CEO

高倉 葉太 (たかくら ようた)

東京大学工学部を卒業後、落合陽一氏などを輩出した東京大学の大学院「暦本研」で機械学習を用いた楽器の練習支援の研究を行う。在学時代にはハードウェアの開発会社を設立し、様々なプロジェクトに携わる。2019年4月に「株式会社イノカ」を設立。「100年先も人と自然が共生する世界を創る」をビジョンに掲げ、生態系を再現する独自の「環境移送技術」を活用し、大企業と協同で環境の保全・教育・研究を行っている。

進むかと思った矢先、広報活動の一環として実施したサンゴの枝打ち体験イベントで、とあるダイバーから本質的な疑問を投げかけられた。ただでさえ減少しているサンゴ礁をわざわざ海から採ってきて、何のための活動なのかと。「確かに当時は増田の技術を世に広めたい一心で、明確なビジョンは持っていませんでした。この出来事から、我々がどうい世界を実現したいのか本気で考え始めました」。そしてとり着いた答えは、『100年先も人と自然が共生する世界を創る』。「2040年に訪れる環境デッドラインまでに、可能な限り多くの環境データを取得し、バイオテクノロジーと掛け合わせた環境移送技術を実用化したい。そして、イノカは100年先の地球環境を守る医者になるんです」。会社の経営を通じてさまざまな人と出会い、自身も変化を続けてきた高倉さん。今歩くユニークな道は、最初から決まっていたものでも、既に完結したものでもない。今後も多くの人との出会いによって、さらに進化するのだろう。

文・重永 美由希

お会いする前とはかくアクアリウムが大好きな方だと思っていましたが、起業後の出会いが現在の事業を作っていると知り驚きました。芯を持ちながらも変化を続ける高倉さんが作っていく新たな世界観にワクワクしています！





# 第10回超異分野学会 本大会

大会テーマ

**変化・適応・進化**

開催日時: 2021年3月5日(金)・6日(土)

9:00～18:00 (懇親会 18:30～20:00)

開催場所: コングレスクエア羽田

(東京都大田区羽田空港一丁目1番4号 羽田イノベーションシティ ゾーンJ)

## 新たな知識が生まれる学会に飛び込んでみよう

超異分野学会は、分野を超えて多様な研究テーマを集め、研究者、ベンチャー、企業、町工場、中高生など異なる立場の視点やアイデアを織り交ぜながら、新しい研究プロジェクトの種を生み出す場です。この学会に集まる、サイエンスの探究と社会課題の解決に情熱を持った人に皆さんの研究への情熱をぶつけてみませんか？ここでぜひ研究の仲間を見つけて、次の一步を踏み出してみてください。共同研究の相手を探している人、自分の研究の幅を広げたいと思っている人、企業との議論に興味がある人はぜひ参加してみましょう！

### 一步踏み出したら新しい世界と出会える場所

大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構  
助教

**大谷 将士** さん

大谷将士さんはポスドク3年目の2015年に超異分野学会に初めて参加しました。それまでは近い研究分野の学会に参加していましたが、研究資金を得るために自身の視野を広げることが必要と考え、参加を決めました。ポスター発表の会場で驚いたのが、発表に伝える工夫が随所にされており、異分野の研究者の発表にも関わらず内容が理解できたことでした。それ以来、超異分野学会では、研究の背景の説明と研究を進めることで広がる未来に重点を置いて説明する工夫をしています。その工夫もあり、2016年にはプレゼンテーションが評価されて、学会特別賞を受賞しました。

大谷さんは「超異分野学会は参加する度に新しい知識や視点を得ると同時に、研究の伝え方にも発見があります」と語ります。学会で意気投合した研究者とは、研究のアウトリーチ活動をともにしたり、共同研究プロジェクトも開始したそうです。大谷さんは「自分のように基礎研究をしている人にとっても、超異分野学会は研究の世界を大きく広げてくれます。ぜひこの学会を活用してほしい」と話してくれました。



## 超異分野学会を活用する方法 1

### ポスター & ピッチで研究の仲間を見つけよう!

超異分野学会でのポスター発表は、多様な研究が集まって毎回盛り上がり、知識や情熱が混ざり合って、新しい知識が生まれる最前線です。また、ピッチセッション「テクノロジー・スプラッシュ」は、2分間のショートプレゼンテーションを連続で行い、プレゼンターが持つ熱と参加者が持つ熱とがぶつかり合い、しぶき(スプラッシュ)を上げるように新しい研究アイデアや仲間が生まれることを目的としています。皆さんの研究への情熱をぶつけて仲間を探してみましよう。



## 超異分野学会を活用する方法 2

### 基調講演 & セッションで研究のタネを見つけよう!

超異分野学会では、「変化・適応・進化」を大会テーマに基調講演やさまざまなパネルディスカッション企画が用意されています。ここでは、研究のはじまりとなる社会課題やその課題解決に向かう研究や技術の社会実装の第一線を知ることができます。当日は国内だけではなく、リバネスが注力する東南アジアをはじめとした海外から研究者やベンチャー企業が参加します。セッションに参加して研究成果の社会実装の最前線を見て、自らの研究の将来像を考えてみましょう。



# ポスター演題締切 2021年1月12日(火) 24:00

【ポスター演題数】200 演題

演題申し込みはこちら

### 【関連キーワード】あらゆる研究分野

エネルギー、ライフサイエンス、建築、化学、モビリティ、ロボティクス、データサイエンス、マテリアル、コンピューターサイエンス、アグリ、エレクトロニクス、フード、サイコロジー 等



### 【ポスター発表コアタイム】

2021年3月5日(金) 15時~16時、  
6日(土) 15時~16時

※ポスター演題登録締切後は聴講のみの登録が可能となります。  
※学会で発表した証明を発行することが可能です。  
※研究発表の希望者が超過する場合は、希望者から選定し、一部のみ発表となります。



意志ある一歩が未来を拓く 研究応援プロジェクト

## 第51回リバネス研究費 申請者募集中!

今回新たに3件の研究費をオープンしています。自分の研究に情熱を抱く、意志ある若手研究者からの応募をお待ちします。

助成対象：自分の研究に熱い思いを持っている40歳以下の若手研究者・大学院生・学部生  
用途：採択者の希望に応じて自由に活用できます。

助成内容：50万円

### ● ダイセルヘルスケア賞

対象分野

#### 腸からヒトの健康を考える、あらゆる研究

例えば健康機能性を持つ食品素材や伝統食に関する研究や、腸内代謝・腸内細菌の共生・菌と菌の関係・腸内や口腔内細菌とヒトの健康との関係に関する研究、微生物機能の活用・開発に関する研究など、腸と健康の間を繋げる様々なテーマを募集します。

### ● カイオム・バイオサイエンス賞

対象分野

疾患の新規治療法確立につながる抗体技術の利用または抗体取得を必要とする研究

### ● 扶桑化学工業賞

対象分野

#### 「果実酸」や「コロイダルシリカ」の新たな世界を拓くあらゆる研究

#### ～フードテック×果実酸、未来のコロイダルシリカ～

扶桑化学工業が強みとするのは「果実酸」と「コロイダルシリカ」です。この2つのニッチトピックをキーワードに、例えば「Food Tech×果実酸」、「未来のコロイダルシリカ」など、共に研究開発することで既存基盤を最大限に活かした新領域を開拓できる提案を幅広く募集いたします。

リバネス研究費の登録および採択情報はこちらから▶

<https://r.lne.st/grants/>



## リバネス研究費申請 Q&A

Q 自分の研究テーマとはちょっと合わない気がするのですが、申請できますか？

A むしろ申請のチャンスです！

各企業は私たちが考えつかなかったようなテーマに出会えるのを楽しみに、研究費を設置しています。自分のテーマをもう一步広く捉えて、異分野と掛け合わせた時に何ができるかを考えてみてください！ちょっとこじつけるくらいが、ちょうどいいかもしれません。Webページには担当者のコメントも掲載していますので、参考に是非お読みください！

Q 学部生、大学院生なのですが申請できますか？

A もちろんです！

ただし、現在のラボでの研究テーマに絡めたテーマで申請する場合には、指導教員への確認を必ず行いましょう。全くのオリジナルテーマの場合は必ずしも教員に確認をとる必要はありませんが、近い分野の場合は十分注意してください。その他、大学内の規定などがある場合もありますので適切にしたがってください。ご不明点あればリバネスまでお気軽にお問い合わせください。

## 見えてきた！若手研究者の研究費申請スタイル！

忙しい毎日、実験も論文もあるけど、みんないつの間に研究費申請しているんだろう？と思ったことはありませんか？前回実施したincu·be賞の申請状況から、若手研究者の研究費申請の際の生態が見えてきました！

- **申請書の作成期間は大体1ヶ月くらい。**

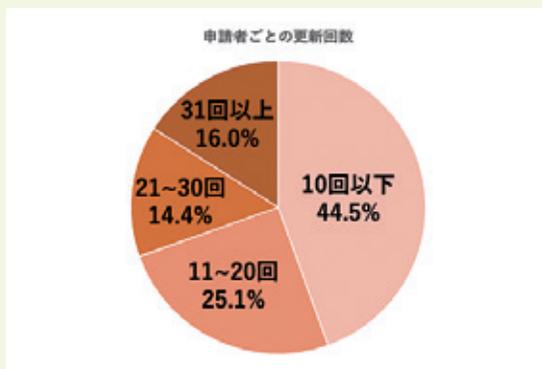
1ヶ月前くらい前に申請書を覗き始める人が多いようです。

- **約半数の人が更新は10回以内で仕上げています。**

推敲回数には結構なばらつきがありました。ちなみに更新回数の中央値は13回。リバネス研究費はオンライン申請なので、保存の癖やこれまでの申請経験にも影響を受けそうです。

- **1発で書き上げる猛者も全体の3%**

研究費の存在に気がつくのが遅かったと諦めそうになったそこのあなた！まだ大丈夫ですよ！1発書きで申請してきた猛者たちも意外とたくさんいます。



# リバネスユニバーシティー 2021年5月開校!

リバネスユニバーシティーは、世界の課題を解決するための“知識”を生み出す大学です。

異分野の知識を学び、その知識を社会にブリッジする方法を身につけ、新たな知識を製造する。ここでは、学生、社会人、ベンチャー、大企業、所属や業種にかかわらず、誰もが学べる場であり、誰もが課題解決を目指す研究者として活動します。

私たちは、ともに世界を変えていく仲間を募集しています。

学長

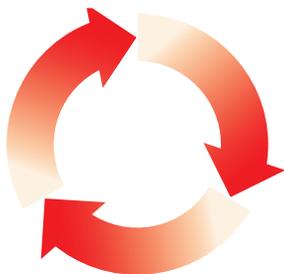
武田 隆太

リバネス グローバルブリッジ研究所 所長



## ここから世界を変える、知識を生み出す。

知識を学ぶ



知識をブリッジする

知識を製造する

### ボードメンバー



理事長

花井 陳雄

リバネスキャピタル 取締役  
(元協和キリン取締役会長)



副理事長

森安 康雄

リバネスキャピタル 取締役  
(元ベネッセホールディングス  
EdTech Lab 部長)



副理事長

丸 幸弘

リバネス 代表取締役  
グループ CEO



理事

高橋 修一郎

リバネス 代表取締役社長  
COO



理事

井上 浄

リバネス 代表取締役副社長  
CTO

### 共通科目 SBL 育成講座



リバネスでは、社会課題の解決には、先端科学と社会の「橋渡し」が必要であるという認識から、サイエンスブリッジコミュニケーター®の概念を生み出し、その基礎的なスキルやマインドを身につけた人材を「サイエンスブリッジリーダー(SBL)」として認定しています。

SBL 育成講座では、コミュニケーション、プレゼンテーション、リーダーシップ、ライティングで構成される「**話せる／書ける**」のスキルを、座学+実地の実践的なプログラムで育成していきます。

#### 実地研修例：

- 科学実験教室の企画立案・運営
- 科学雑誌の制作
- 各種イベント・セミナーの企画立案・運営
- 代表講演会への参加

### 選択科目 ゼミ活動



リバネスユニバーシティーは、リバネスが世界中で構築してきた知識プラットフォームを活用し、「あらゆる知識にアクセスできる」を実現することを目指しています。ゼミ活動では、ゼミ生の課題解決に対する情熱・ベクトルを明確にし、実際にプロジェクトを回しながら新たな知識を製造する力を育成します。講師を務めるのは、リバネスのサイエンスブリッジリーダーを始め、知識の社会実装に取り組む研究者や、テクノロジーベンチャー、地球規模の課題解決を進める企業研究者など。世界のトップランナーが自らのディープイシューをテーマにゼミ活動を推進します。

#### テーマ例：

- 課題解決のためのディープテック
- サーキュラーエコノミービジネス
- 腸内環境デザイン
- 人が健康に暮らすために必要なAI技術

#### <募集要項>

**対象:**大学院生及びポスドク(学部生は応相談)

**活動拠点:**東京地区／大阪地区

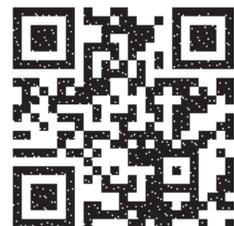
**期間:**1年間(5月開始)

**開講日:**指定の日曜日(ゼミ活動は随時調整)

<問合せ>

株式会社リバネス リバネスユニバーシティー準備室

担当: 武田、立花、松原 TEL:03-5227-4198 MAIL:info@lne.st



あなたとのディスカッションを、中高生が待っている！

# 研究アドバイザー 募集中！

リバネスでは、いつでもどこでも、誰もが研究活動に取り組める世界を目指し、中高生の研究活動を多方面から後押ししています。この活動には、現役の研究者の協力が不可欠です。研究アドバイザーとして、研究に向かう姿勢や専門知識、研究がひらく未来などを子どもたちに伝えることで、彼らの研究をともに広げていきませんか？

純粋な好奇心や課題意識から生まれる中高生の新たな視点に触れることは、皆さん自身の刺激にもなるはずです。現役研究者からのたくさんのご応募をお待ちしています！



## こんなことを伝えてください

- 自分の研究や周辺分野に関する情報
- 先行研究の調べ方
- 仮説の立て方や、研究計画の立て方
- 実験のやり方
- 伝わりやすい発表や記述の仕方
- あなた自身のこと（なぜその研究をしているのか、研究者としての将来像など）

## 研究アドバイザー登録の条件

- 修士課程在学中、修士号取得者、博士課程在学中、博士号取得者のいずれかであること。もしくはそれ相当の研究経験を有する大学生、高専生。

**184 名の方が登録中！**

(2020/10/22時点)

## 2021年度マリンチャレンジプログラム

【求める人材】 海・水環境の研究に興味をもてる方。居住地域・専門分野不問。

【活動形態】 月1回・平日夕方に1時間程度、中高生の研究グループとのweb面談による研究アドバイスを実施。

【詳細URL】 <https://marine.s-castle.com/adviser/>

【締切】 2021年3月31日



## 小中学生のための研究所NEST LAB.

【求める人材】 東京で小中学生のコーチとして業務可能な方。専門分野不問。

【活動形態】 日曜(月2~4回)の午後4時間程度、東京飯田橋にて小中学生の研究グループに対する講義や研究アドバイス等を実施。

【詳細URL】 <https://school.lne.st/coach/>

【締切】 2021年3月14日



# 研究キャリアの相談所

## 募集中の求人情報

研究に熱い企業があなたを待っています！

QRコードから各求人の詳細情報をご覧いただけます。興味のある方は各ページの「エントリーする」からご応募ください。リバネスの担当者からご連絡します。

### 株式会社 VEQTA

募集職種

主任研究員

バイオインフォマティクスの技術から腸内細菌叢の乱れを評価し、最適な治療プランを選択することによって疾患の予防・治療につなげられるような、腸内細菌を利用した診断法の開発を目標としています。また、疾患および健康に関連する細菌を対象としたプロバイオティクス、あるいはプレバイオティクスを用いたサプリメントの創生や食事療法、さらには便移植などの臨床分野への応用も目指しています。蓄積される腸内細菌の解析データから、各個体の状態に合わせた「テーラーメイド治療」の実現に向けた研究に共に取り組んでいきたいと考えております。



### aiwell 株式会社

募集職種

研究統括職、研究員、研究補助員

東工大発ベンチャー企業として、東京工業大学との間に協働研究拠点を設け、タンパク質の網羅的解析技術『プロテオミクス』の実用化と社会実装を進めています。タンパク質の変異を画像の比較で特定することで、創薬の現場等でのバイオマーカー候補の早期の発見や、化粧品や食品等の効能効果のエビデンス取得も可能になりました。将来的にはタンパク質をAIの画像判断技術に落とし込み(AIプロテオミクス)、病気の早期発見や医師の診断支援を目指しています。



### 株式会社エアロジールラボ

募集職種

事業部長候補

ドローンの設計・製作からシステム構築までをトータルにプロデュースする、ドローンのソリューション・プロバイダーです。バッテリーとエンジンのハイブリット型で長時間飛行できる大型ドローンの設計・開発から行う日本でも希少な企業です。ドローンで人が運搬困難な場所などに輸送手段を届ける世界を実現します。事業部長としてドローンメーカーとしての事業基盤づくり、さらにはドローン社会の基盤固めをお任せできる方を求めています。



### トイメディカル株式会社

募集職種

研究開発職

当社は2013年末に立ち上がった熊本に拠点を置くスタートアップ企業です。

『おもちゃのように、患者様も医療従事者も、使う人皆が笑顔になれるような製品を創り続けていきたい。』という思いのもと、医療機器事業・シリコン事業・健康食品事業の3つを中心に事業成長をしております。現在は「体内に吸収されない塩」を開発研究し、オンリーワン企業を目指しております。一昨年には大手製薬会社と資本提携を結び、今年には大手製薬メーカーとの商品共同開発も進んでおります。私達と共に、皆が笑顔になれる製品を創り続けていきませんか？



## 研究キャリアの相談所の2つの活用方法！

### 今すぐ相談をする

自身も研究経験のあるリバネスのコミュニケーターが対応。就職活動や進学など、あなたの研究キャリアに関するご相談を受け付けています。簡単に相談内容をフォームに記載ください。

### 研究キャリアに関する情報を得る

相談事はないけれど、何か新しい機会があれば知りたい！という方も登録ください。新規採用やイベント情報など、研究キャリアに関する情報を不定期にメールにてお知らせします。

どちらも、下記リンクよりご登録ください。

<https://lne.st/rcctrform>



有料職業紹介事業

・許可番号：13-ユ-300411

・範囲：国内における科学技術における専門的・技術的職業

※お問い合わせをいただいた時点ですでに募集を終了している場合があります。その際はお容赦ください。

# 『incu・be』を作っているのはどんな人?

編集部スタッフを紹介します



編集

江川 伊織 修士 (学術)

プロフィール

山形県の田んぼと山しかないエリアに生まれ育つ。高校・大学と文系の道を歩むも、研究室配属を機に文理融合系の学科で半分理系の道へ。完全主義の研究で修士号を取得し、2017年にリバネスへ入社。心の研究とテクノロジーを組み合わせ、新たな研究を生み出す「サイキテック研究所」を立ち上げ、研究プロジェクトの運営と若手研究者のキャリア開発等に携わる。

大学院で性格心理学の研究を進めるうちに、同じ心という対象に興味を持ちながら、工学や神経科学、看護学、哲学など、自分とは異なるアプローチをとる研究者たちがいることを知りました。実際に会って議論を重ねることで、自分だけでは到底たどり着けない仮説を生み出せることに大きな可能性を感じました。リバネスに入社後も、心理学者とベンチャーの技術を組み合わせた研究企画を立ち上げています。こうした経験から、異分野との連携により生み出せる仮説の幅が広がるのだと、研究者としての成長を感じました。異なる領域の人とのアクションから視野を広げる経験を多くの研究者に届けたく、研究者のキャリアに関わる仕事をしています。

本誌『incu・be』では前号の編集長を務め、自分の目標や未来像を考えるための思考ツールを提案する「キャリア発見! ツールボックス (P.14)」のコーナーを立ち上げました。本誌に収録されているさまざまな研究者の遍歴を参考にしながら、自分のことを内省し、未来をつくるアクションに繋げてほしいという想いから始めました。ツールボックスで見出した自分の想いや整理した思考を起点に、「キャリアディスカバリーフォーラム (P.12)」や「超異分野学会 (P.20)」などを活用し、自分の挑戦を前に進める仲間を見つけてほしいと願っています。

## 株式会社リバネスでは仲間を募集中です。

「科学技術の発展と地球貢献を実現する」の理念のもと、自らの専門性を活かし、未来を創造するプロジェクトを行いたい研究者の仲間を募集しています。『incu・be』の制作などを通じて、研究者のキャリアを加速するプロジェクトを創ることもできますよ。

### ■ リバネススタッフと参加者の一人一人の未来への熱を語るイベント 「Visionary Cafe」を開催

東京：2020年12月6日(日) 10:30～12:00

大阪：2021年1月17日(日) 16:00～18:00

■ 申込・詳細はこちら <https://lne.st/recruit/>



採用・Visionary  
Cafe 詳細はこちら



## 人材応援 プロジェクト

私たち株式会社リバネスは、知識を集め、コミュニケーションを行うことで新しい知識を生み出す、日本最大の「知識プラットフォーム」を構築しました。教育応援プロジェクト、人材応援プロジェクト、研究応援プロジェクト、創業応援プロジェクトに参加する多くの企業の皆様とともに、このプラットフォームを拡充させながら世界に貢献し続けます。

(50音順)

株式会社 aiwell  
藍澤證券株式会社  
株式会社アオキシントック  
アクプランタ株式会社  
株式会社アグロデザイン・スタジオ  
アメリエフ株式会社  
株式会社池田理化  
inaho株式会社  
株式会社イノカ  
インテグリカルチャー株式会社  
インテリジェント・サーフェス株式会社  
株式会社 Inner Resource  
株式会社ウェルナス  
株式会社エアロジーラボ  
株式会社エクサウィザーズ  
株式会社Eco-Pork  
株式会社荏原製作所  
MI-6株式会社  
株式会社ガルテリア  
環境大善株式会社  
関西電力株式会社  
コニカミノルタ株式会社  
KOBASHI HOLDINGS株式会社  
株式会社コルク

株式会社セルファイバ  
大正製薬株式会社  
株式会社ダスキン  
THK株式会社  
DIC株式会社  
トイメディカル株式会社  
日本製粉株式会社  
日本ハム株式会社  
日本たばこ産業株式会社  
株式会社ニューズピックス  
株式会社バイオインパクト  
パナソニック株式会社 アプライアンス社  
株式会社日立ハイテック  
株式会社ヒューマノーム研究所  
株式会社ファームノートホールディングス  
株式会社フォーカスシステムズ  
株式会社プランテックス  
株式会社フロンティアコンサルティング  
株式会社VEQTA  
マイキャン・テクノロジーズ株式会社  
株式会社ムスカ  
リコー株式会社  
レキオ・パワー・テクノロジー株式会社  
ロート製薬株式会社

## 研究応援教員とは

研究の世界に踏み出そうとしている学生に対し「研究キャリア」を考えるきっかけを提供するため、『incu・be』の配布等にご協力くださる先生方を募集しております。『incu・be』を毎号、ご希望の部数を無料でお届けする他、リバネス研究費やキャリアイベント等のお知らせをメールにてお送りいたします。ご協力いただける場合には、下記のフォームからご登録をお願いします。

<https://lne.st/ru>



# 研究応援教員 (敬称略) 611 名 (一部掲載)

- 【愛知学院大学】市原 啓子
- 【会津大学】寺蘭 淳也
- 【藍野大学】外池 光雄
- 【茨城大学】中平 洋一
- 【医療創生大学】相葉 繁
- 【宇都宮共和大学】須賀 英之
- 【江戸川大学】浅岡 章一、福田 一彦
- 【大阪大学】佐藤 尚弘、井上 克郎、久武 信太郎、瀬恒 謙太郎、池田 裕香、岡本 行広、大竹 文雄
- 【大阪工業大学】河村 耕史
- 【大阪市立大学】蔡 凱、中臺 枝里子、立花 太郎
- 【大阪電気通信大学】鄭 聖熹
- 【大阪府立大学】竹井 邦晴
- 【学習院大学】武田 晃司
- 【鹿児島大学】片野田 洋、上田 岳彦
- 【神奈川工科大学】白井 曉彦
- 【金沢大学】ゴトウ ヒロシ
- 【関西大学】河原 秀久、片倉 啓雄、工藤 宏人
- 【九州大学】吉村 淳、近藤 哲男、清水 邦義
- 【京都大学】山口 栄一、五味 良太、川本 純、今村 公紀、大日向 耕作、中野 伸一、宮野 公樹、望月 伸悦
- 【京都産業大学】川根 公樹
- 【京都府立大学】高野 和文
- 【京都府立医科大学】小野 勝彦、角田 圭雄
- 【近畿大学】生塩 研一
- 【熊本大学】杉本 学、米本 幸弘、佐々木 満
- 【慶應義塾大学】久保 健一郎、中西 泰人
- 【県立広島大学】阪口 利文
- 【高エネルギー加速器研究機構】大谷 将士
- 【工学院大学】三木 良雄
- 【高知大学】仲嶺 真
- 【甲南大学】久原 篤
- 【神戸大学】影山 裕二
- 【国立環境研究所】一ノ瀬 俊明、中島 英彰、藤野 純一
- 【国立成育医療研究センター】要 匡
- 【埼玉大学】大久保 潤
- 【埼玉県立大学】国分 貴徳
- 【産業技術総合研究所】安藤 尚功、宮崎 真佐也、三輪 洋端
- 【滋賀大学】大平 雅子
- 【滋賀医科大学】平和也
- 【静岡大学】成川 礼、松井 信
- 【島根大学】秋吉 英雄
- 【首都大学東京】可知 直毅、酒井 厚
- 【城西大学】片倉 賢紀
- 【信州大学】清水 雅裕、片岡 正和
- 【成城大学】境 新一
- 【千葉工業大学】坂本 泰一、山本典史
- 【中央大学】松永 真理子
- 【筑波大学】鈴木 石根、永田 毅、林 洋平
- 【帝京大学】黒沢 良夫
- 【東京大学】牧野 義雄、有岡 学、梅田 靖、木下 裕介、川越 至桜、生長 幸之助、四本 裕子、矢作 直也、松田 良一、柳澤 大地、深野 祐也、田中一敏、飯塚 怜、池尻 良平
- 【東京海洋大学】戸田 勝善、濱田 奈保子、浦野 直人
- 【東京工科大学】中村 真男
- 【東京工業大学】因幡 和晃、猪原 健弘、田岡 祐樹、大上 雅史、大橋 匠
- 【東京工芸大学】大海 悠太、森山 剛、細宮 敦
- 【東京歯科大学】武田 友孝
- 【東京農業大学】相根 義昌、安田 麟太郎、松林 尚志、渡辺 智
- 【東京農工大学】山浦 紘一
- 【東京理科大学】金子 敏宏、山本 誠、諸橋 賢吾、生野 孝
- 【同志社大学】石浦 章一、太田 哲男、下嶋 篤
- 【東北大学】大関 真之、齋藤 将樹、山崎 翔平、鈴木 高宏、西村 君平、勝山 稔
- 【東北福祉大学】高木 源
- 【東洋大学】梅原 三貴久、廣津 直樹、清水 文一
- 【徳島文理大学】徳村 忠一
- 【鳥取大学】久郷 裕之
- 【富山県立大学】立田 真文、古澤 之裕
- 【長崎大学】松本 健一
- 【名古屋大学】佐藤 綾人
- 【名古屋工業大学】小田 亮
- 【日本大学】伊藤 賢一、渡邊 泰祐、福田 昇、浅井 朋彦、佐甲 徳栄、畠山 吉則
- 【日本女子大学】宮崎 あかね
- 【日本医科大学】若林 あや子
- 【ノートルダム清心女子大学】小林 謙一
- 【光産業創成大学院大学】瀬口 義浩
- 【広島大学】長沼 毅
- 【福井大学】沖 昌也
- 【法政大学】小池 崇文、吉田 一朗
- 【北海道大学】河西 哲子
- 【宮崎大学】山崎 有美
- 【三重大学】Takehisa Iwakoshi
- 【武庫川女子大学】升井 洋至
- 【山形大学】戸森 央貴
- 【山梨大学】浜田 駿
- 【横浜国立大学】金子 信博、為近 恵美
- 【理化学研究所】篠崎 一雄
- 【立教大学】関根 靖彦、山田 康之、亀田 真吾、塩見 大輔
- 【立命館大学】野口 拓
- 【琉球大学】浦崎 直光、與那 篤史、千住 智信、荒川 雅志
- 【労働安全衛生総合研究所】久保 智英
- 【岩崎山工業高等専門学校】楠部 真崇
- 【早稲田大学】尾形 哲也、小塩 真司、田中 宗、玉城 絵美
- 【Thomas Jefferson University】Kyosuke Kazama

(2020年8月19日現在)

## 若手研究者のための研究キャリア発見マガジン『incu・be』とは

『incu・be』は、目標を見つけ、それに向かって実力を養い(incubate)、未来の自分をつくり出す(be)ためのきっかけを提供します。自らの未来に向かって主体的に考え行動する若手研究者を、企業・大学とともに応援します。

## 『incu・be』の配布・設置について

『incu・be』は、全国の理工系大学・大学院の学生課・就職課・キャリアセンター等に設置いただいているほか、「研究応援教員」のご協力により研究室や講義にて配布いただいております。学校単位での配布・設置をご希望の場合、その他お問い合わせは下記までご連絡ください。

株式会社リバネス incu・be編集部  
TEL：03-5227-4198  
E-mail：incu-be@Lne.st

中高生のための研究キャリア・サイエンス入門  
『someone』(サムワン)



研究をはじめたばかりの読者に、最先端の研究内容をご紹介します。未来の研究仲間となる後輩にお勧めください。お問い合わせ：someone@leaveanest.com

## ++ 編集後記 ++

本号は、特にベンチャー企業にスポットを当てました。ベンチャーの皆さんのオフィスにお伺いすると、初めて来たはずなのに何故だか妙にしくりくる感じを受けることがあります。まるで自分が大学にいたころの研究室のような……。まさにそこで世の中を変えるような新しい何かが生み出されている、という点は研究室と共通しているからかもしれませんね。大変なこともたくさんあるけれど、だからこそ光るベンチャー企業の魅力を今号の記事の中から一つでも発見していただければ嬉しいです。(重永 美由希)



2020年12月1日 発行

incu・be 編集部 編

編集長 重永 美由希

art crew 昆 美菜子

古川じゅんこ

清原 一隆 (KIYO DESIGN)

越海 辰夫 (越海編集デザイン)

編集 江川 伊織/環野 真理子/

長谷川 和宏/松原 尚子/

宮内 陽介

記者 岸本 昌幸/小玉 悠然/神藤 拓実/

高木 史郎/富田 京子/中島 翔太/

福田 裕士/森本 けいこ

発行人 丸 幸弘

発行所 リバネス出版 (株式会社リバネス)

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町1-4

飯田橋御幸ビル5階

TEL 03-5227-4198

FAX 03-5227-4199

E-mail incu-be@Lne.st (incu・be 編集部)

リバネス HP <https://lne.st>

印刷 株式会社 三島印刷

© Leave a Nest Co., Ltd. 2020 無断転載禁ず。

